



2007年1月15日

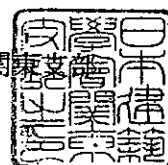
東京女子大学

理事長 原田明夫 殿

学長 湊 晶子 殿

社団法人 日本建築学会 関東支部

支部長 片桐正夫



### 東京女子大学東寮および体育館建物の保存に関する要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より本会の活動につきましては多大なご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、貴大学では図書館や講堂・チャペルなど 7 棟の建物を既に国の登録有形文化財に登録されており、そうした建築文化の継承に対する積極的な姿勢にも敬意を表する次第であります。

さて、貴大学で現在進行中のキャンパス再整備計画におきまして、東寮（5号館）と体育館（13号館）の建物を2007年夏から解体する方針であるとの記事が、2006年8月10日付の『毎日新聞』をはじめとする各紙で報道されました。

ご承知のように、貴大学東寮は鉄筋コンクリート造地上2階建て、体育館は鉄筋コンクリート造平屋建て（一部2階建て）の建物で、いずれも1924年（大正13年）に建設されました。設計者はチェコ出身のアメリカ人建築家、アントニン・レーモンド（1888-1976年）です。レーモンドは帝国ホテルの設計者であるフランク・ロイド・ライトに誘われて1919年来日し、その後も戦時中を除き、主に日本で活躍した著名な建築家です。

貴大学の東寮と体育館は、独立して間もないレーモンドの最初期の本格的な作品であるとともに、貴大学の創設者が掲げた崇高な理念を巧みに具体化した善福寺キャンパスにおいて、いずれも欠くべからざる重要な施設として真っ先に竣工した建物であります。この東寮・体育館は、ともに別紙「見解」にて詳しく示します通り、日本における鉄筋コンクリート構造の導入期に最新のデザインとユニークかつ合理的な構造設計を同時に実現した建物であり、日本の近代建築史上において、また技術史上において注目すべき建物といえます。

貴下に置かれましては、この貴重な建物の持つ歴史的価値について改めてご理解いただき、建物の取り壊しを見直していただくとともに、このかけがえのない文化遺産の価値を最大限に考慮した保存改修を行っていただけますよう、格別のご配慮を賜りたくお願い申し上げます。

なお、日本建築学会関東支部といたしましては、この建物の保存に関してできる限りのご協力をさせていただく所存であることを申し添えます。

敬具